

(公財) やまがた育英会

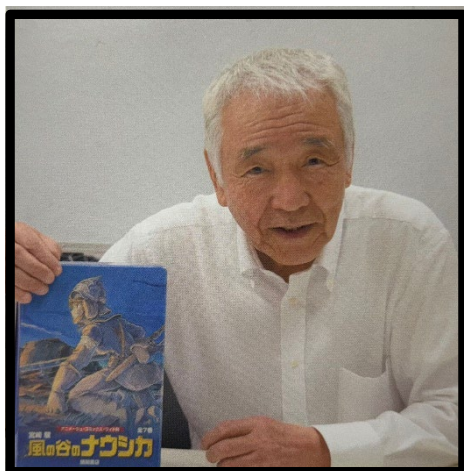
駒込学生会館 板橋学生会館

寮生保護者 各位

(CC:評議員、監事、理事各位)

## 和田 豊 前寮監が逝去されました

～生前のご尽力に深甚なる敬意と感謝を表し、ご冥福をお祈りいたします～



やまがた育英会理事・前寮監 和田 豊さんが令和7年1月1日、逝去されました。享年81歳。生前のご尽力に感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

なお、葬儀は1月4日にご家族など近親者のみにて営まれております。

つきましては「偲ぶ会」を(公財)やまがた育英会により次のとおり執り行います。

### (公財) やまがた育英会 前寮監「和田 豊さんを偲ぶ会」

- 1 日時 2月23日(日・天皇誕生日) 午後1時～3時
- 2 会場 やまがた育英会駒込学生会館 多目的ホール
- 3 次第 開式の言葉・黙祷・献花・懇談・閉式
- 4 その他 ご遺族の遺志により、ご香典、ご供花、ご供物の儀は固くご辞退申し上げます。ご都合の良いお時間に平服にてお越しください。

令和7年1月23日

公益財団法人 やまがた育英会 代表理事 鈴木 礼子

昨年12月30日に来寮され、「1月6日に来て資料など引継ぎする」とかけてもらった言葉が最後になりました。人格、考え方、学生との向きあい方、尊敬することばかりでした。また優れた芸術的センスや感性に息をのむことが多くありました。見習い寮監として半年、おぼろげながら自分なりの方向性が掴めてきたかなと思った矢先で、がっくり来ています。まだまだご指導いただきましたのに・・・

ただ、ただ安らかな旅立ちをお祈りするばかりです。

## 「やまがた育英会」美術品シリーズ③

### 事務室わきの日本画 **荘内館の風景**（数少ない遺作）



天賦の才有した画学生

#### 【岡部 敏也 氏 略歴】

- 1920 酒田市元米屋町（現一番町）生まれ
- 1931 ごろから地元の日本画家・田中恵泉の指導を受ける
- 1933 酒田商業高校（現酒田光陵高）入学  
「木蓮」で全国中等学校美術展に入選。翌年には「出陣」を描き、その類まれな才能が注目される
- 1939 東京美術学校（現東京芸術大学）日本画科に入学（旧荘内館入館）
- 1943 日本画院展出品の「農婦」が日本画院賞を受賞。大日本美術院展では「姉妹」が奨励賞受賞。卒業制作の「山びこ」は優等賞・河合玉堂賞を受賞。同年9月、東京美術学校を首席で繰り上げ卒業（学徒動員）
- 1945 ソ連軍との戦闘において満州興安西省五叉溝にて戦死。享年 24 歳

（出典：山形新聞）

◇作者 岡部 敏也（おかべ・としや）

◇大きさ タテ 110 cm×ヨコ 82 cm （ガラス反射をお許しください）

※道路を下った正面に描かれているのは踏切の番小屋

## 奈良に打ち勝つ

東京近郊には北海道から沖縄まで全国 41 の学生寮があります。「奈良県奨学会 養徳学舎」もその一つ。文京区小日向にある男子寮で在寮生は現在 40 名。今後、女子寮も併設したいと当財団の駒込寮、板橋寮を視察に訪れました。そんな縁もあり野球の試合でもと話が盛り上がり実施の運びとなったもの。

対戦は 1 月 18 日（土）18：00 から上野恩賜公園にある正岡子規



▲正岡子規記念野球場（上野）で



▲やまがた育英会の精鋭メンバー

っては2ホームー、守ってはほぼノーエラーという攻守ともに目を見張る躍動ぶりで、13対2という圧勝に終わりました。

嬉しかったのは試合に勝ったことよりも、中心寮生が未経験者にも広く声をかけ1年生から4年生までが参加してくれたこと。そして試合後は奈良県寮生とも打ち解け、互いに寮を紹介しあったり、また野球だけではなくフットサルやバスケなど別な種目でも試合をしようという話が出るなど交流がより深まっていることでした。

記念球場で始まりました。練習風景を見るだけで、その実力が推し量られますが、奈良チームは結束もよく、キャッチボールもビシッと胸元に決まります。一方、わがやまがた育英会チームは数名の野球経験者はいるものの急造チームで、投げるボールが大きく逸れたり、受ける球を後逸したり、名誉監督(寮監)の胸には暗雲が立ち込めました。

ライトが明るく照らすマウンドで人生初の始球式をさせてもらいプレーボール。しかし始まってみれば当初の不安はどこ吹く風。打



俳人・正岡子規は

球場わきに建つ記念碑▲

東京大学予備門時代にベースボールに熱中し、その用語を「野球」「打者」「走者」「直球」などに訳し野球の普及に努めた

## 卒寮生を盛大に送る

### ～ 令和6年度<予餞会> OB/OG企画も盛り上がる ～



▲講演する石川士朗氏

令和6年度は、34名が卒寮します。その壮途を祝して卒寮生を送る「予餞会」が1月26日、駒込学生会館多目的ホールで開催されました。

和田 豊前寮監の逝去を悼み黙とうを捧げた後、鈴木礼子代表理事が「コロナ禍の中での学生生活で大変なことも多かったと思う。寮生活で培った大志を胸に社会に羽ばたいてほしい」とあいさつしました。

続いて講演会に移り、田端文士村記念館館長補佐の石川 士朗氏が『田端文士芸術家のように、大きく羽ばたけ』と題して講演。この中で石川氏は「なぜ田端に文士が多く集まるようになったのか。それは大正3年、芥川龍之介が22歳の時に中央区明石町から田端に移り住んだのが発端」「『鼻』が夏目漱石から激賞され、自らの書齋を『我鬼窟(がきくつ※



エゴイストの意)』と称し本格的な活動に入った」、「龍之介を慕う室生犀星、萩原朔太郎、堀辰雄らが移り住み田端が詩の都となった」ことなどを説明。文芸作家の活動を紐解いたうえで寮生に「①交流する ②仲間を作る ③ふるさとを大事に」との3つのキーワードを挙げて実社会での活躍にエールを送りました。



これを受け卒寮学生を代表して鈴木健人君（専修大4年・令和5年度寮長）が「都内企業に就職するが、いずれは山形に戻って起業したい」と決意の一端を披歴し、会場からは大きな拍手が送られました。

▲講演を真剣に聞く寮生

## ～ 抽選で選ばれた『場所×モノ』をOBがいくつ買ってこられるか?! ～

予餞会に入り、卒寮生へ記念品贈呈として鈴木代表理事から代表の山科知子さん（お茶の水女子大4年・令和5年度女子寮長）に「yama gata-ikueikai」の名が入った高級ボールペンと和田前寮監直筆の『壮途』一社会に旅立つ諸君へーが手渡されました。



受け取った山科さんは「本当は一人暮らしがしたかったけど親の勧めで入寮しました。改めて振り返ると寮に入って本当に良かった！」と4年間の感謝を述べてくれました。

▲鈴木代表理事からの記念品を受け取る山科さん

佐藤修三業務執行理事の乾杯の音頭で懇談に入りました。理事・評議員などの役員も在寮生と寮OB・OGの囲むテーブルに入り、学生の話に耳を傾け、また人生の先輩としてのアドバイスをする姿も各々のテーブルで見られ、賑やかなうちにも和やかに進みました。

おっと、ここでOBの登場です。

会場前のモニターにはクイズ問題が大写しされ、それに解答し正解のテーブルが賞品を手に行うことができるというゲームが始まりました。昨年10月の秋の寮祭で大好評だったOB企画で、参加者が投票した「地域」と「モノ」を抽選し、それをOBたちがどれだけ買ってこられるかという宿題に取り組み、この日を迎えました（選出された「地域」と「モノ」は表のとおり）。無理かと思える組み合わせでしたが1、4、7を除く4つの賞品が実現。OB・OGの方はわざわざ奈良に行きカステラを、広島に出かけチーズを購入してくるという学生にとっては贅沢な、OBにとっては時間もお金も使う大変な企画です。

No	地域	モノ
1	福岡県	女性
2	奈良県	任天堂スイッチ
3	奈良県	カステラ
4	沖縄県	リンゴ
5	広島県	チーズ
6	山形市桜田	明太子
7	北海道	砂丘の砂

これには2016年卒寮の深瀬祥平さんら多くの卒寮生が取り組んでくれました。それだけ寮に対する思いがあるのだなと進行を見守りながら、ありがたくて胸が熱くなりました。

深瀬さん考案のクイズも「日本で発行されている新聞の部数は?」「2019年と比べて株価は何パーセント上昇したか」「新NISA」など社会人にとって知っておくべき秀逸なものばかり。一



問一答に会場は大いに盛り上がりました。OB・OGのみなさん、本当にありがとうございました。

山形の味・芋煮や冷めてもおいしいつや姫の塩むすびをほおばりながら、お腹も心も満足したところで中締め。清野能昭業務執行理事が「3つの大切な健康がある。一つは体、一つは心、そうしてもう一つは経済の健康。卒寮したらこれを大切に」と締めくくって予餞会を終了。ここからは学生委員会主催

の「お別れの会」に引き継ぎ、別れを惜しむ宴は日付を超えて深夜まで続きました。

この予餞会には16名ものOB・OGが駆けつけてくれました。

「学生寮」という同じ郷土の同じ世代が集う装置に「和田 豊」という強烈なストーリーテラーが掛け合わさることで、駒込学生会館・板橋学生会館が「第2のふるさと」となっている気がしました。和田さんの偉大さを改めて感じるとともに、これからも寮OBのみなさんがいつでも立ち寄ってもらえるような雰囲気づくりをしていかなければと気持ちを新たにす機会となりました。



▲わざわざ広島に行き購入してきた「チーズ」を紹介する後藤笑実子さん(2017卒寮)。左奥は今回の企画の中心、深瀬祥平さん(2016卒寮)

#### ※予餞会(よせんかい)とは

卒業式以前の学年末近くの時期に、卒業を控えた最終学年の学生を送り出す目的で開催されるもの。キーボードをたたいても変換されず現在では死語になりつつありますが、(公財)やまがた育英会では、歴史あるこの言葉を残していきたいと卒寮生を送る会をあえて「予餞会」として実施しています。

## 令和7年度 新入寮生後期募集 受付中です

首都圏の大学、短大、専門学校に進学する方をご存じでしたら、ぜひご紹介ください。

■募集期間 後期(一般受験) 令和7年1月4日(土)~3月6日(木)

■申込等 ホームページをご覧ください (<http://yamagata-ikueikai.or.jp>)

(公財)やまがた育英会 寮監 石井 隆  
ご意見、ご感想をお待ちしています

[t-ishii@yamagata-ikueikai.or.jp](mailto:t-ishii@yamagata-ikueikai.or.jp)